

恵那南地区中学校再編についての地域説明会議事録

開催日時 令和5年3月16日(木) 午後7時～
開催場所 上矢作コミュニティセンター
出席者 上矢作地域の方 53名
その他の地域の方 20名
説明のため出席した事務局職員等 7名

開 会 (午後7時)

教育長 挨拶
副室長 恵那南地区中学校再編についての説明

青木所長 この後、質疑の方に入ります。挙手にて発言をお願いいたします。また、挙手をした時には、お名前をいただくと大変ありがたいです。それでは、1人1問ということで進めていきたいと思っておりますので、ご意見、ご質問のある方は、挙手をお願いいたします。

参加者 上矢作町の土屋と言います。この前、うちの娘が中学校を卒業したんですけど、生徒数は11人でした。卒業式のあと、先生から1人1人にメッセージを送ってもらえました。11人だからこそその先生が1人1人の性格までわかった上でのこの1年間、この子はこういう性格でこういうことだったよねっていう、もうすごくあったかいメッセージでした。その後、1、2年生の時の担任の先生もビデオメッセージで、1人1人に本当にいい言葉をくれて、小規模校ならではの良さだなと思いました。子供が多い学校もいいとは思いますが、そういう小規模校の良さを伸ばす方向性も検討はしてはもらえないでしょうか。

教育長 ありがとうございます。私も恵那北中学校の卒業式に行ってきました。恵那北中学校も決して、大きな学校ではないんですけども、本当に感動的な卒業式でございました。人数が少ない学校の良さ、本当にたくさんあると思います。1人の担任の先生に、生徒が30人ならば、きっと見る時間も多少少なくなってくるわけですね。そういうことに関しては、今度は多くの先生で1人の子を見ながら、今もどこもやっているんですけど、先生同士が今日こういうことあったよとか、こういうこと気になるよというようなこともやっていきます。できる限り多くの目で1人のお子さんを見るような、そんな体制も作っていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

参加者 今年度中学校のPTAをやらせていただいております。よろしくお願いいたします。教育委員会の皆様には、日頃より子供たちの教育に対して、ご尽力いただきまして、感謝申し上げます。ありがとうございます。また先日、小学校の方で、雑談会という形で、保護者と教育委員会の皆さんと意見交流というか、交換会を開いていただきまして、その時に、保護者のみなさんの意見も提出させていただきました。それは保護者の皆様の思いになりますので、教育委員会の皆様

に大切にしていきたいと思っております。説明の方で、このあり方検討委員会が26年にあって、27年に再編委員会で答申が出されたと思うんですけど、その時にあり方委員会を1年間かけて会議をする。10何回ですね。再編委員会を10何回、2年ぐらいかけて答申が出たと思うんですね。そこからしばらく何もなく、ずっとこの統合が眠っていたという言い方はあれですけど、なくて、いきなり検討委員会を立ち上げて、提言書っていうことなんですけど、その検討委員会の委員に保護者が入っているいないの地域があって、それって本当に地域や保護者や子供たちのための委員会だったのかっていうことが疑問だし、そこに入ってなかった地域があったことに対して、とても残念に思っております。ですので、ずっと眠ったことに対して、これから4月から、準備委員会も作っていただくっていうことを聞いておりますけども、関係なく、こういった形で今説明会をしていただいていると思うんですけど、この恵那市としてというか、教育委員会として、そちら側からこういうことがありましたよ。って説明会をしていただきたいと思うんですけど、それってできますか。できませんか。

教育長 ありがとうございます。28年の3月に答申をいただいてから、しばらく時間が空いてしまったということに関しましては、私どもの進め方とかについても問題があって、本当に申し訳なかったと思っております。今回再度提言をいただいて進めていくわけですけれども、いろいろな地域からどんな風に進んでいるのかということ連絡してほしいということがありましたので、説明会ということになるのか、それともそれぞれの専門部会になるのか、内容をできる限り早く、今こんなことを進んでいますとか、こういうこと決まりましたとか、ホームページや小学校、中学校の方々には、すぐ一等でもお伝えすることができますので、できるだけ状況を丁寧にご説明させていただきたいと思っております。特に保護者の方等にはよくご理解をいただきたいということも思っております。この前、上矢作でもやらさせていただきましたけれども、説明が必要ということがあれば、PTAの会長さんを通して、説明に行かせていただきますし、ある程度のまとまったところで各学校へまた、説明に行くということも、これから考えていかなければならないと思っております。できる限り、早く情報を発信したいということは考えておりますので、よろしくお願いをします。

参加者 川上といいます。今、発言ありましたけども、僕は平成27年の中学校再編委員会に地域の代表として出させてもらっていました。当時、上矢作からは小中それから保育園、地域代表、自治連代表という形で5名の方が参加していました。僕らは代表ですから、地域の皆さんがこの統合に関して、どういう思いを持って見えるのかってことをできるだけ聞いて、その委員会に届けたい。委員会であつたことをまた地域に帰って、その当時は自治区運営委員会でした。そこで、話をさせてもらって、進めてきたわけです。その当時のメンバーですが、恵南だけで、1つの市町村で5人、串原だけは小中一緒でしたから4人だったかと思うのですが、30名。今回の環境等検討委員会、これは全体でメンバーが15人ほ

どですよね。市教委の皆さんも保護者の皆さん、当事者が1番大事だと言われますけど、今言ったみたいにいない地域もありますし、全体で15人ということは地域がもう倍になって15人ですから、本当、地域の人の意見とか考えとか、そういうものを十分、環境等検討委員会に反映することはできてなかったかと思うんです。私も3回傍聴に行きましたけども、市民の方からこういうことをもっと考えてほしいとか、遠くのものには特に通学に負担がかかるから、その辺検討してほしいとか、まず、一校にしなくても、2校3校っていう順番にやってったらどうだみたいな話も随分、市の方に届いていたと思うのですが、この委員長さん、瀬瀬さんは「検討することではありません。」で、紹介だけするんですね。1番やっぱり当事者の保護者が関わる学校ですから、その人たちの声を十分聞いて、進めるべきだと思います。そのことがどうだったかってことを思うわけです。当時はアンケートをやりました。地域の方の連名で、それぞれの代表が、保護者の皆さんに出して、アンケートをやりました。いろいろな意見が確かにあるんです。でも、それはその人の考えですから、十分保証しながら、それはまた委員会で反映してね、こういうことやると。アンケートをやったのは、串原もそうでした。岡田教育長さんもその時にみえたと思います。最初の回に僕は「もう1校に統合で決まりですか。」と、その当時、大畑教育長さんに聞きました。「1校に決まったか、決まらないかと言えば、まだ決まっておられません。」とその時はっきり明言しました。会議録を見てください。そう書いてあります。あ、そうなんだと。だけど、事務局からは1校に向けて資料もださしてもらいますと、そういう風に書いてあって、資料も出てきました。ところが13回やったんですが、その会議の中で、いつの間にか委員会に諮問したのは、統合の時期と場所だという風にしてきて、1校がどっかへ行っちゃって、あれいつ決まったのかな。決まってないと言ったのに。と思いながらずっと来てて、最後13回目にさっき言われた平成28年3月25日に答申書が出されました。その時に付帯事項がついてるんです。僕はこれすごく大事だと思ってね。1番初め「児童生徒、保護者、就学前の子供を持つ保護者、地域住民の声を重視し、十分な理解や協力を得ながら進める。」と。実は僕も気になってたもんですから、岩村の昨日の会場とか、明智にも行きました。そしたら、やっぱり「まだこういうことが不安だ、もうちょっと考えてほしい。なんでそんなに急ぐんだ」みたいなことを、随分意見が出てました。全部は言えませんが。だから、そういうことも含めて、十分な理解や協力を得るために、やっぱり地域住民、保護者の声を大事にするような、そういう進め方をしてほしいわけです。今からでも遅くはありません。十分、保護者の意見を聞いてほしいと思います。

教育長

ありがとうございました。小規模の学校のことにつきましては、ここに記載がございませんが、平成20年から、検討が始まっております。その時、小規模校教育検討委員会というもので、まず検討してきました。その時に、恵那南地区5校を1校にいう風で考えたらどうかっていうことと、小学校はかなり人数が少なくなってきたら、やはり各地域に残そうと、そういうような、最終的なあ

のお考えを示されました。その後少し時間がありましたけれども、平成26年にあり方検討委員会で、再度それを受けて、話し合いをしていただき、5校を1校に。ただ場所と時期については、話し合うことが必要だっていうことで、平成27年に恵那南地区の中学校再編委員会を行いました。この時は今の川上さんも出られたと思いますが、私も出ましたし、30数名のメンバーで本当に時間をかけて、丁寧に話し合いをしていただきました。そして、1校に統合して、山岡地区に新築ということで答申をいただきました。それから、今の8項目の付帯事項ということ。よく話を聞いて、ということは、私たちは、1校を進めるにあたって、よく話を聞いていく。その中で保護者の方が心配なことや、そういうことを少しでも解決してやっていく事項だと捉えております。それを受けまして、先ほど申しましたように、しばらく時間が経ってしまいましたが、その間に付帯事項等についての検討もしました。平成31年4月から8月までには全体で1170人という方たちに公聴会を開いて、ご意見もいただいております。その状況等をもう1度説明させていただきながら、状況が変わっているところもありますので、それについて検討委員会で検討していただいて提言をいただいたという流れでございますので、時間をかけて丁寧に、それぞれの代表の方がお話をされたものを、私たちは、重く受け止めて、今進めているところでございます。よろしく願いいたします。

参加者

小笹と申します。7年前に私たちは多分、子供が保育園だったと思うんですけど、その時に意見を聞かれた時に、まだ自分事じゃなくて、全然自分たちの子供がすごく関わってくることだってことに、あんまり気づいてなかったっていうのは、本当に自分たちがダメだったと思うんですけど、今までやってきた地区の方たちへの説明会を聞いて、やっぱりこれだけ反対の意見が出てたりとか、お父さんたちがこれだけ色々調べて、距離とか測って、自分たちの子供たちに関わるってことを、本当に私たちが今真剣に考える状態になってることは、これを進めてきた意味はあったと思うんですね。でも、これからSDGsっていうのが来て、推薦都市になっていくんですよ。ここって、教育長の胸についているバッジは、SDGsのバッジですよ。これの、11番のゴールって住み続けられるまちづくりをっていうことですよ。なのに、私たちは今直面していることを反対しているのにも関わらず、今すぐ決められるっていうことは、住み続けられる町になるのかなっていう不安はすごくあります。過去のことは変えられないかもしれないけど、私たちが直面している私たちが自分事について考えられているので、だったら、もうちょっと話し合いできるようになりませんか。これが無理やり進められたら、安心して、住める町だとは到底思えないです。

教育長

ありがとうございます。今の住み続けられる町ということにつきましては、もちろん、私たち教育委員会も考えておりますし、市全体としても様々なことを考えておりますので、それについては、これからも継続して考えていくということになると思います。また、考えることはできませんか。ということですが、もちろん、保護者の方たちと一緒に考えていくということの中で、1

つの方向を私たちは示させていただいているということでございます。1校で、山岡で、と。もちろん、今言われたように、反対のご意見があることもわかっておりますし、賛成という方の意見もございますので、その辺のところをしっかりと話をしながら、わかっていたきたいと思っておりますし、わかっていたるように、努力をしていきたいと思っております。

参加者 すいません。先日岩村で手をあげたんですけどもスルーされて、やっとここで。僕の意見です。この教育委員会では、より良い中学校はできないと思っております。なぜなら、言い上げれば本当にきりがありません。決定的に欠落していることを言うとなれば、保護者や市民の意見を聞かずに、教育委員会の主導で委員会決定しますよね。さらに都合のいいことばかり取り上げてるんですよ。そんなやり方してて、今後進めていっても、何か課題が出たとしても、結局教育委員会でいいこと取りをして握り潰して進めていくんだらうなっていうのがすごく目に見えてます。教育委員会って、本当は中立的で、合議性があるってやるっていう風に、文科省の手引きにも載ってますよね。それが全くできてないと思うんですよ。この点について、すごく大きな逸脱をして、これは大きな問題だと思うんですよ。これは僕の意見なので、これについて回答いただかなくても結構です。で、僕、教育長に聞きたいです。教育者である教育長として、今の進め方って教え子いると思うんですけども、胸をはって、このやり方が正しいって言えますか。

教育長 ありがとうございます。正しいと思っております。それぞれの代表の方に出させていただいて、委員会をいくつか重ねてきました。それぞれの委員会は、本当によく話し合いをされて、真剣に考えられました。例えば恵那南再編委員会の時も、皆さん決して、地域から中学校がなくなることを賛成だ、嬉しいよっていう風に言っているわけではありませんでした。その中で、子供たちのことを考えた時に、1校でやっていけないかというご決断をされて、答申を出されたと思っております。それを受けて進めております。

参加者 山岡町の安藤と言います。こういうところで話をするのがあまり得意ではないので、お聞き苦しいところあるかと思いますが、お願いします。自分は山岡の今度1校になった時になる中学校の本当に徒歩3分ぐらい。統合したら、1番近い家になるのではないかとこのころに住んでます。僕が初めに統合の話を聞いた時に思ったことは、大勢の学校になって、部活なんかも色々選べて、運動会も盛大にできるのではないかと。自分の子供はとて近く歩いて通えるし、問題ないのかなという風に安易に考えてました。この地域説明会に出させていただいて、岡田教育長の話聞く中で、とても疑問に思ったことが1つあって、岡田教育長は、この保護者説明会などで、1学年3クラス。クラス替えのある学校が素晴らしい学校です。そして、日本一の学校を作りますということ、ずっと言われていると思います。実際、僕はこの上矢作で育ちまして、下原田小学校13人、上矢作中学校34人の小規模なクラス替えのない学校で育ちました。その後、愛知県へ出ていき、仕事をしましたが、この地元でなんとか仕事をしたいという思いで、上矢作へ帰ってきて、今上矢作で仕事をさせて

いただいています。そして、この統合の問題を語る中でも、この地域の同級生や同年代の仲間たちと毎日のように熱い議論。そしてこの地域にとって何が素晴らしいのかを日々語り合える、多くの仲間がいます。このような素晴らしい仲間、この地域に恵まれておるといのは、本当にこの小規模な学校のおかげではないか、こういう風に思っています。でも、これは小規模な学校だけではないかもしれないですけど、そう考えた時に、本当にこの小規模な学校がいいのか、大規模な学校の方がいいのかっていうのをすごく悩みました。これを誰かに問えないかという思いで、いろいろな方に相談したら、和光大学の山本教授という方を紹介していただきました。その方はこの統合問題に真剣に取り組んで見えて、色々な統合をしたところを研究に入って、いろいろな問題がないかということ調べている教育者です。その方に、たまたまお伺いすることができて、大規模中学校と小規模中学校どちらがいいと思いますか。という質問をさせてもらいました。どちらも悪いっていいことはない。小規模学校は、小規模学校の良さがあるし、大規模学校は大規模学校の良さがあると。ただ、その方が言われたのは、あまりにも広い地域の地域性の違う中学校を統合する場合、とても大きなリスクを背負う可能性がある。実際に、他の地域では統合した後に、思春期の中学生が地域の派閥を生み、抗争になったような学校もありますということでした。また、不登校になって学校へ通えなくなるとか、そういったところに研究で入らせていただいて、取り組んでいるという意見をいただきました。僕としては1校を反対というわけでは全くありません。1校でもいいと思いますし、はたまた5校残した方がいいのか、それを知りたいという思いでいます。その教授に全国にはそういう研究をされている方がたくさんみえると言われました。そういった方の意見を聞かずに、今1校ありきで進んだのはどうなのかな、というのをすごく疑問に思いました。ここでちょっと皆さんにお伺いしたいと思うんですが、このまま本当に1校ありきで、早く統合を進めた方がいいと思われるのか、専門家の意見をしっかり聞いて、この地域に、そして、子供たちにいい学校を真剣に考えて、取り組んだ方がいいと思われるのか、挙手をお願いしたいと思います。このまま、早く一校で進めた方がいいと思われる方は、挙手をお願いします。ありがとうございます。しっかり話し合ってから、議論してから 決めた方がいいと思われる方は、挙手をお願いします。実際このように、今この地域は意見が割れるわけです。これ、他の地域でも僕5ヶ町村出さしてもらいましたが、こんな状況だと思えます。このまま無理やり統合の話を進めても、僕は分裂を生むだけだと思って、僕は本当にこの上矢作が大好きで、なんとかこの上矢作を盛り上げたいと思ってますので、最後に教育長に質問をさせてください。いつも、教育長に質問をさせてもらおうと、僕の質問とは違う答えが返ってくるような気がして、今日は「はい」か「いいえ」で答えていただきたいです。このような意見の割れる中で、このまま1校で進めることが、この地域にとって素晴らしいことだと思いますか。お答えください。

教育長

はいかいいえで答えるのはなかなか難しいですけども、この状況でも私た

ちは前に進めていきたいと考えています。

参加者
参加者

本当に悲しいなというのが正直なところです。ありがとうございます。
いずれにしましても、冷静にいろんなことを話し合う会ですので、高ぶらないようにして、いきたいと思います。私、それこそ2016年に恵那市になりまして、その辺りから、この地域の代表、地域協議会であったり、統合について、あるいは過疎が進む町について、いろいろなところでいろいろなことを話し合ってきました。そして、今度もこの統合中学校ってということで、委員会に出さしてもらったら、上矢作ですから、ぜひ、委員長やってくれよってという話で、委員長を25年、26年と2年間、この統合中学校について話し合ってきました。出た人が、みんな「おれんとこの町に中学校をなくなっちゃ嫌だ。そんなことはダメじゃないか。」って、さっき、川上先生もおっしゃっていましたが、30人、40人近い委員会の中でいろんなことを話してきました。2年間にわたってですよ。月2回の割合で、各町村から5、6人の代表がでて話し合ってきました。中学校とはなんぞや。感情じゃなくて、中学校とはなんぞや。生まれてから保育園、小学校、そしてそこから10歳になり、13歳になって、その子供にどんな教育をしたらいいだろうか。親として大人として地域として。私はその時に委員会の方に言いました。ここで、統合中学校をなぜ1校にしていくべきかっていうことは、私は10歳なり11歳になって、思春期を迎えて、自分の進路を決めていかなくちゃならん。そういう時代にこの子供たちが中学生になって、自ら自分の進路を決めて、そうして生きていくためには、厳しい社会に生きていくためには、せめて恵南1校で200人近い子供たちで勉強し、先生とともに多くの先生と関わり、多くの友達と関わって、自分の人生を開いていくべきじゃなかった、そういう風に私は話してきました。そして、なお、私たちはなかなか見えんのですけども、先を見なくちゃならん。10年先、20年先を私はやっぱり見据えていかなくちゃならんっていう風に考えます。私も飯地とか中野方に友人がおりますので、聞いてみました。「今、25年経ってきて恵那北中学校に統合してよかったですか。」と。「あの時、ちっちゃな学校がいい、距離が遠くなるみたいなことをいっぱい問題にして話し合ってきました。でも、あの時なんであんなことにこだわっていたのか。と今思います。鈴木さん、ぜひ恵那南地区中学校を早く統合して、素敵な地域にしてほしい。5年経ち10年経ったら、その子達が素敵な地域を作っていく。上矢作のことも大事だし、岩村も、それぞれの5ヶ町村それぞれ大事だけど、恵那南地区として考えられる。そういう人間を育てるには、やはり統合しかない。早くしてくださいよ。」そういう風に伺いました。長くなりましたので、以上です。

青木所長
参加者

ありがとうございました。続けていかがでしょうか。
上矢作の安藤と言います、よろしくお願ひします。教育委員会の皆さんにおかれましては、本当に連日各地域にいろいろな意見がある中、色々やっただいてありがとうございます。多分ここにいる人たちもそうだと思うんですけど、別に合併を反対してるとか、そういうわけじゃないんですよね。ただ、多分こういうことを言う人がうるさいって扱われるのはどうしてもしょうが

ないと。だけど、中学校って僕にとってもそうで、これ母校がってなったら嫌で、自分たちが育った思い出の学校がなくなるんですから。保護者の皆さん、その子供たちに対してはより一層その思いが強いと思うんです。なぜなら、当事者になるので。うちの息子はもう高校生です。実は部活野球をやってたんですけど、土岐まで行きました。人数不足の関係もあって、そこに関しては本人がやりたいって言ったので、僕はいいと思って。このあり方委員会の時に、「うちの子は大きい学校の方が部活もできるし、学校も選べるし、いろんな友達もできるし、いいんだろうな。」そう勝手に僕は思っていました。つい先日もう高3になる息子に聞いたんですよね。「お前はやっぱり大きい学校の方が良かったよね。そうすれば、部活も土岐まで通わなくていいし、地元の学校でできるし。」って言ったら息子が言ったんです。「いや、僕は上矢作でよかったよ。上矢作がよかったよ。」親なのに、それがわかってあげれてなかった。自分の子供のことですら、わかってあげれてなかった。統合するのもいいでしょ。だけど、この資料を見てみると、統合による効果はめちゃくちゃ書いてあります。でも、そういう思いの人たちがいるっていう部分に対しては、何にも触れられてない気がするんですよ。やはり、そういうところは、今のこれからの保護者のため、子供たちのため、しっかりと対応して行ってあげないと、結局同じようなことが生まれていくんじゃないかなと思っています。確かにこの皆さん、峰夫さんもそうです。代表になって、やってきた人たちの言葉は重いです。だけど、ここにいる保護者の言葉も重いはずですよ。あっちの意見が重いから、こっちの意見は軽いからとか、そういうことはないはずですので。そこはちゃんとしっかり聞いて、答えを出してあげてほしいと思います。その点について、どう思いますか。

教育長

ありがとうございます。Q&Aの方にも少しデメリットを書いておりますし、今議事録を公表させていただいております。その中で、心配なことがデメリットになるのかということをおっしゃっておりますので、それについては、丁寧に説明していきたいと思っています。いろいろなことを決めていくには、いろいろな過程があるわけで、どこかでは結論を出していただいて、それに向かって進んでいくっていう形になると思います。それがこの何回か重ねてきた検討委員会等の進め方と、その結果であると思っています。これからも、丁寧に説明をしていかなければいけないと思っています。けれども、今の意見を聞かないとか、そういうことではないんですが、できれば私たちは1校統合がより良く、皆さんに受け止めてもらえるように、どうしたらいいのかなと。それから、先ほど言いましたけども、小さな学校が私はダメだっていうことは、思っておりません。小さな学校には、小さな学校の良さがあります。ですが、より良い環境とか、例えば、これは本当に分かりやすい例で言いますと、職員が増えることでの良さももちろんあるわけですので、これからも丁寧に進めさせていただきたいと思っています。よろしくお祈りします。

参加者

近藤といいます。僕も統合について反対しているわけでは一切ありません。ここで、1月に説明会があった時に質問させていただいたんですけど、地域が寂

れることの心配と子供たちの意見を聞かない、この決め方、そこに、僕ら何よりも危機感を感じた。先ほどから岡田さん言ってますけど、そう言わなきゃいけないところもあると思うんですけど、こういう説明会に出さしていただいたんで、色々わかることがあったんですけど、進め方がやっぱり残念で仕方がない。やっぱり、みんなの意見を聞いてたら、進まないっていう部分があると思うんですけど。こういう声を上げてでも決定したことだと決まったことだ。前を向け。僕も十分前見てるつもりです。こういう学校に来たらどうだろう。残って選択系で、みんながどこでも行けるような地域もありますよね。瀬戸市か。小規模校の良さをいっぱい調べさせていただいて、大学教授とも話させてさせていただいて、色々わかったことはあるんです。ただ、本当に1番言いたいことは、あなたたちが進めてる分断政策が私たちを分断に巻き込んでます。仲の良かった人と話がしにくくなって、今まで普通に喋ってた人に無視されたり。ただ、自分の思いを言うことすらできなくなってる。こんなやり方が正しいってなったら、この先僕たち何も言えなくなっちゃうんじゃないかなっていう不安がすごくあります。それで、1つだけ教えてほしいんですけど、答申と提言に決定権があるかないか、「はい」か「いいえ」でお答えください。答申自体に決定権がある、という風には思っておりません。

教育長

参加者

教育長

参加者

教育長

参加者

教育長

参加者

教育長

参加者

教育長

参加者

教育長

提言は。

提言もそうです。

じゃあなぜ、決定したって進めてきましたか。

それはその答申を受けて、教育委員会としては、その方向が良いのではないかということです。

もうみんな「もう決まったことだから、何言っても無理だ。」って言って来ないんですよ。この時期も。その進め方狙ってましたよね。

そういうことではなくて、提言を受けて、教育委員会でも検討して。

決定したって言い続けましたよ。

そうです。教育委員会としては、そう決定しました。ただこれは教育委員会だけではなくて、市としてもどうなんだというご意見いただきました。要するに、最後に決めて設置するのは市ですので、市が最後に決めるんじゃないかという意見もいただいておりますので、その辺については、私はこう説明しました。市の方にも、「ぜひこの方向で進めれるように、全力で説明をしていきます。」という中で、今回3月議会で市長さんは進めていこうということをおっしゃいました。

アンケートを取らずに、このままもう準備委員会立ち上げて進めてくってことでいいですか。

アンケートは取る内容とタイミングが大切だと思っています。今の子供たちに例えばやりますか。やりませんか。っていうような質問はしません。それよりも各学校で、これからの小学校、中学校それぞれに統合とか、中学校とは、とかいろんなことを話題にする。そういうような機会を増やしていく中で、子供たちがぜひ新しい学校で学びたいなと思えるような、そんな風になってい

くといいなと思います。その中で、例えばどんなことが不安ですか。とか、どんな学校にしたいですか。とかは、聞くかもしれません。

参加者 教育長 青木所長 参加者 はい、今の不安が拭われてないのに、それができるんですか、頑張ります。

続けていかがでしょうか。

明智の平林と申します。私は、自分の教え子が高校に入って学校に行けなくなったっていうことが、ずっと心に引っかかっているの、通学時間のことについて、後でお聞きしたいと思います。その子はバスと明知鉄道に乗って1時間ぐらいかけて、高校に通っておりました。2学期まではその子は大変真面目な子なので、勉強も一生懸命やって、部活も一生懸命やっておりました。3学期になってから、もうくたびれちゃって、朝起きれなくなっちゃったんですよ。それで、もう3年間ずっと学校に行けなくなっちゃって本当に引きこもりをしていて、親も本当大変な思いで過ごして見えました。僕も何回かそのお宅へ訪問したけれどもなかなかその子も辛くって顔を出してくれませんでした。そういうことで言うと、通学の時間はすごく大きな問題だと思っています。瑞浪市は20分から30分という風に教育長さんが決められましたよね。ということは、本当に子供や親の負担のことをすごく丁寧に考えて見えます。なのに、恵那市は1時間ぐらいなら、文科省が言ってるからいいと。これって本当に子供や親のことを本当に配慮していますか。もう1つ言わせてもらおうと、文科省が教育委員会の意義というのを出しています。その中に地域住民の意向の尊重というのがあります。ということは、地域住民の声をしっかり聞いて決めなければならないとはっきり言ってるわけです。教育長さんの進めているやり方は、地域住民の意見を言わせるだけ言わせても、ちっとも聞かない。反対意見があっても無視される。市長さんは地域にしこりを残してはいけないということで、前の市長選の時に、反対意見がいっぱいある。賛成意見もいっぱいあるけど、中が十分まとまっていない。この状態では進められないとストップさせられましたよね。そういうことで言うと、教育委員会の意義に戻りますけど、地域住民の意向を十分尊重して決めなければならないっていうのは、教育委員会の意義ですよ。それに違反していませんか。

教育長 ありがとうございます。地域の方の意向等をどのように聞いていくかということもあると思いますし、今いろいろな物事を進める中で、検討委員会等を立ち上げて、私たちだけが決めるということではなくて、委員会からもご意見をいただいて、それを積み上げて、やっていっていると私は思っております。それから、もちろん、登校時間につきましては、それは近い方が良いに決まっていると思いますが、現実には距離的に遠い学校に通って見える方もいるわけですので、なんとか1時間ならば、やっていけないかという思いはあります。実際に徒歩で40分50分かかっている子もいます。どこに建てても遠い子もいれば、近い子もできるわけです。けれども、そういうことも理解してもらって、その中でよりよい環境の中で学習をしていってほしい。生活をしていってほしい。ということを思います。私も教員をやっておりましたので、いろいろ

な子供たちを見てきました。もちろん、先ほど言われたように、小さい学校で社会性が育たのかと言われたら、それは育たないってことはないと思います。育つと思いますけれども、例えば私の経験した子供たちの中で言うと、小さい学校で、ある程度人間関係が固定している中で、1度人間関係でつまずくとなかなか居辛くて、それで転校を余儀なくされたっていう子もいます。そうじゃない子ももちろんいます。小さな学校にも良さがあるし、大きな学校にも良さがあるし、大きな学校でも悩む子もいるし、小さな学校でも悩む子もいます。いろいろな子がいるので、私たちは、そういう子に対して丁寧に接して指導していくということが教員の仕事だと思っております。大きな学校になった時に不安なこと、それから心配なこと、人間関係のことも含めて色々あるかもしれません。けれども、それは子供たちや先生と一緒にあって、改善できるような、そんな学校にしたいなと思っております。

参加者

上矢作町に住んでおります河原と申します。現在上矢作小学校の方でPTA会長をさせていただいております。日頃は、小学校の子供たちのために、教育活動をして、力を入れていただきまして、誠にありがとうございます。先ほどから、皆さんからお話を伺う中で、私は皆さんと違って、賛成派というわけではないんですけれども、合併はしていかなければいけないかなと思っておる人間ですので、このような、反対派ではないというお話を発言するため、非常に胸が躍っております、ドキドキしております中で、お話をさせていただきます。先ほど中学校のPTA会長川上さんから、お話がありましたように、上矢作は中学校と小学校、こども園を巻き込みまして、任意でアンケートをとらせていただきました。もちろん、いろいろな意見がありまして反対ですとか疑問ですとか、要望等ございました。けれども、その中でも、早く合併していただきたいという意見がある中で、1つ私が非常に気になったのはですね。来年の入学生が上矢作小学校は1名となります。その子が中学生になるまで、あと6年という中で令和8年開校できなかつた場合ですね。その子に同級生ができない。その親御さんは、なんとか子供に同級生を作ってあげてほしいという意見がありまして、非常にその意見に胸を打たれたわけでございます。いろいろな意見があつて、先ほどのようにですね。進めていかないか途中で、こういう反対が強い中で、尚且つ、ハイカイエで答えてください。というような、非常に厳しい意見が出てしまうような関係になつてること自体が非常に悲しいなと思つているわけでありまして。なるべく保護者の方や、地域、住民の方に理解をいただけるような努力をもう少ししていただけるようお願いできるのではないかと思つています。お願いします。

教育長

ありがとうございます。私どもの進め方とか、説明の仕方等について、本当に不十分なところがあることも確かです。私も38年教員やってきましたけれども、それでも限られた経験でございます。実際に子供たちと一緒に過ごしてきた中で、体感してきたことを元にいろいろなことを話しております。けれども、その中でも、教育のプロとして38年間やってきましたので、そこで感じていることや、できることは、精一杯やらせていただきたいと思つています。1つ

やはり情報発信が、遅くなってしまったということが、ご理解が十分いただけなかった原因の1つになっているかなということを思っています。できる限り早く出せるものは出していく。ただ、外に出す記録でございますので、きちっと確認もしながらやっていきますので、時間がかかる部分もありますが、できる限り情報提供を早くしていきたいと思います。これからも、丁寧にやりながら、前に進んでいきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

参加者

わしも孫の時代になっちゃって、このことを聞いて、なんで1校ってことになるかってんだよね。今5校あるもんで、これをまず極端に言えば串原と上矢作も少ない。あんまり少なくちゃ、教育にもなりませんから、まず2校を1校、串原が明智に行くとかして、まず3校にして、これでやってみて、もう生徒が増えるわけないんでね。それに合わせて、その時代に合わせながらじわりじわりとやっていけば、こんな摩擦は起きんと思う。金だってさ、我々の税金ですよ。あなたたち役所の方たちは税金を使ったって痛くもへでもないもんで、十分使うんで、これも1つのうまくやっていくための手段です。それと、もう1つここ入ってきて、開口一番に1番右の方。あなたが、時間は8時半にやめます。と、そういう役所のやり方をしとっては、誰も納得せん。だって、あなたたちはここへ来ただもんで、皆さんが全部意見を言い終わってから言おうと思ったんだけど、時間なんか関係ない。やる気があればそうでしょう。8時になろうが9時になろうが、10時になろうが、その気になら、みんなの意見を全部出してもらって、それでそれをまとめてくのがあなたたちの仕事じゃないですか。お役所の仕事って、そういうことや。時間なんてそんなこと関係ない。そういうやり方がダメなの。だからこういう亀裂起きるの。過疎になってくるのは当たり前。こんなものは、日本どこも過疎になるもの。上矢作だけじゃない。あるうちはみんなで助け合ってやるもんで、一気に1つにするから、矛盾が生じるんだ。だんだんやっていけばもう来年からだったら、即やれるし、校舎も作るきゃないし、誰の金もかからんで済んでくれる。そういうこと考えな。税金を自由に使える方たちと、我々は稼いでなきゃ食ってけんだから、その立場の違い、それを切に思いました。大勢で子供たちの場で教育させることは必要です。けどこういうみんなの意見を聞いて、みんな先生方って偉い人だよ。けど、自分たちの言うことは言うんだけど、人の言うこと聞かんでだめ。それは先生の悪いところ。この中で十分、せっかくの機会を作ったんだから、みんながもう出し切っちゃって「わかりました。どうもご苦労さんでした。」とをもっていくのが、本当の説明会であり、必要な会議です。私はそう思いましたので、教育長さんにもそういう点を踏まえて、今からでも遅くないから 随時やってく方法もとっていただいたらいいと思いますが、いかがですか。

教育長

ありがとうございました。例えば今3校っていうことも言われました。山岡を1つ、岩村と上矢作、明智と串原ということなんですけど、例えば今すでに山岡の学年は1クラスということでございます。そういう状況を少しでも解消したいということで、統合を進めています。そうすると、例えば、2校でどうかということでございます。けれども、2校にした時にも、お金が全くかから

ないわけではなくて、これもお金がかかるんです。例えば、道路をちょっと整備しないとスクールバスが入っていけないとか。それから、もう1つはやはり統合した時に子供たちが統合して楽しみにして学校行けるなっていうことを考えた時には、環境整備等もやはりやっていかなければならないと思っています。そうすると、2校になったとしても、全くお金がかからないわけではありません。それから2校にしたとしても、令和11年度ぐらいになりますと、やはりそれぞれの学校が学年1学級っていうのももう出始めるんですね。そういうことを考えたら、今1校にして、令和16年度でも、2学級を育てるといふそういう状況があるならば、お金をかけてでも増改築をして1校にしたいなと思っています。お金については、無駄遣いをするということではなくて、いろいろな補助金とかある中で、できる限りのものを使って、できる限り市の持ち出しを少なく抑えて、子供たちのためにお金を使っていければということを考えています。

青木所長
参加者

それでは、最後お願いします。

私は後藤と申します。僕全く喋るつもりなかったんですけど、話を聞いてて、まず上矢作ってご存じかと思うんですけど、昔は2校だったんですね。下原田中学校、小学校。それから上中学校。僕は下原田中学校の卒業生です。今は中学校が統合されて上矢作中学校になっています。上矢作中学校を娘が先日卒業しました。息子が小学校4年生で、今のままでいくと、息子が中2の時に統合されることになるんですかね。下原田中学校の思い出はものすごくあって、18人のクラスだったんですけど、今でも夢に出てくるぐらい、すごく素敵な思い出ばかりで、時代が流れて、少なくなるからってということで、統合して上矢作中学になりました。上矢作中学校を卒業される、今年11人だったんですけど、みんなそれぞれ1番最初に言ってくれたように先生もすごく深い中で、それは田舎特有っていうか、みんなすごいいい思い出になっていると思います。何が言いたいかって言うと、子供って、僕らも当然昔は子供だったんですけど、この間テレビで見てたんですけど、チベットやったかな。子供が10年ぶりにふるさとに帰ってきました。その子供はその親の元に帰りたいばかりか、親は子供のことを思って、お前帰ってくんな。こんなとこにみたいな感じだったんですけど、子供はその自分の部族が好きだから、帰ってくるんですよね。要は子供は与えられた環境に馴染むのが世界一上手っていうか、なんて言いますか。僕らが心配するほど、多分その統合されて、学校がマンモス校になっても馴染んでいく子供の方が多いかとは思いますが。中学校1年生から3年間新しい中学校になれば、通学時間の問題はあるんですけど、馴染んでいく力も強いんで、さほど問題が起きないんじゃないかなって楽観的な考えはするんです。特にケアしなきゃいけないのは、僕の息子みたいに途中から入る子供たちっていうのは、本当にケアしてあげないと。それこそ中学1年の時は元気だったけど、急に統合した瞬間になかなか馴染めなくてっていう。すごく心配されるのだとは思いますが、その辺は本当にケアしてほしいし、統合する前に色々やるというのもそうだし、統合してからのアフターケアはしっか

りしてもらいたいと思います。僕上矢作大好きなんですけど、町がちょっとでも1つになるように、今いろいろイベント考えたりとかしています。なんかこう話を聞いていると、分裂してしまいそうで、嫌なんです。この雰囲気があるので皆さん、まずは仲良くしましょう。前向きにっていうのは、みんな言ってくれてるんだけど、みんな反対してないんですよ。やり方がちょっとわかりにくいっていうのだと思うんですよ。もう少し丁寧な説明は必要かなと思いますし、やっぱり納得したいですからね。本当に大変だと思いますけども、これから先、統合に向けて頑張ってもらいたいなと思っています。

教育長

ありがとうございました。確かに5つの学校から集まってきます。途中からっていうことになる、余計に人間関係のこともそうですし、どんな先生がいるんだろうっていうこともそうですし、不安はたくさんあると思うんです。それで、この4月から各小学校、中学校も含めて、日常的にできるっていうことはなかなか難しいですけれども、交流ができるような、タブレットを使ったりもそうですし、実際に会ったりもそうなんですけど、そんな機会を少し増やしていきたいなということを思っています。統合した時の学校につきましては、各中学校から、人数がゆるせば小学校からも職員を配置して、知ってる先生もいるな、というようなところで、スタートができるようにもしていきたいと思えます。また、先ほど本当に卒業式の時に感動的なメッセージとかをいただきました。っていうことなんですけど、それは人数もそうなんですけども、きっとお子さんと先生が本当に良い活動をしてきたからかな、ということを思います。私も何人も卒業生を出しました。心の中はどうかはわかりません。本当に私のことを好きだったのか、嫌いだったのか、それは聞いたことありませんけれども、私は最初に持った卒業生1人1人からカーネーションの花をもらいました。私にもわからないように、机の中に入れ、隠しておいて、最後にくれました。どこの学校でも本当に一生懸命先生方がやってくださっています。大きい学校でも、子供たちがよかったなと思えるような、そういう学校を作っていきたいという思いはどの教員もあると思いますので、そんな学校を作っていけるように努力していきたいと思えます。これからも必要に応じて説明や情報発信等を、丁寧にさせていただきたいなと思っていますので、どうかよろしく願いいたします、

青木所長

いろいろな意見を聞かせていただきました。本当にありがとうございました。今日は以上で終わりにさせていただきたいと思えます。本当に長い時間、ありがとうございました。

閉 会 (午後8時30分)